

ガソリン平均価格160円突破

エコ運転で燃費改善



エコドライブ講習で指導を受ける記者（左）。停車時はアイドリングストップが大切だ

車道の雪もだいぶ解け、ドライブシーズンも間近になった。一方で、イラン情勢の緊張を受けレギュラーガソリンの平均小売価格が道内で160円を突破し、燃料費の高騰に頭を抱える人も少なくないだろう。でも運転方法によって燃費を大きく改善することは可能だ。環境と家計に優しい「エコドライブ」の講習会に参加し、そのコツを聞いてみた。
(鬼頭良幸)

ゆっくり発進、アイドリング停止

エコドライブ講習会は道内の教習所などで開かれていて、今回は札幌市北区の中央バス自動車学校で受講した。同校は、エコドライブの普及に取り組み交通エコロジ・モビリティ財団(エコモ財団、東京)のカリキュラムに沿って講習会を実施している。



車の燃費を計測する燃費計。自動車用品店などでも販売されている

講習会はまだ、周辺の公道約3キロを運転して燃費を計る。続いてエコドライブの方法について指導員から学び、同じコースを再び走って燃費改善の効果を確かめる流れだ。試験走行は信号の状況によって結果が左右されないように、青信号が続いた場合は一時停止の時間を設けている。

乗った車はトヨタの小型車ヴィッツ(1300cc)。はじめの試験走行では、いつも通りの運転を心掛けた。車に取り付けられた燃費計によると、ガソリン1リットルあたり8.7キロ走行という結果が出た。指導員の山田敬一さん(49)から「発進時に少し

教習所の講習会 3、4割節約する受講生も

急ぎすぎていますね」と指摘された。山田さんは、財団法人・省エネルギーセンター(東京)認定の「省エネルギー運転インストラクター」だ。座学では、山田さんは「発進時が燃費改善の大きなポイントになりま」と強調した。発進時にアクセルをゆっくりと踏み込むだけで、燃料の消費量を10%減らすことも可能という。

オートマチック車ならば、車が自動的にゆっくり動き出す「クリープ現象」をしっかり確認した上で、アクセルをそっと踏み込む。この動作は「ふんわりアクセル」とも呼ばれ、5秒かけて時速20キロにするのが目安だ。走行時には加速と減速を繰り返すと、燃料消費が大きくなるので、速度の変動を抑えることも大切。山田さんは「車間距離をあげると、前方の車に左右されずに運転できます」と助言した。

停車時は、アイドリング(暖機運転)をやめることだ。山田さんは「5秒以上停車するなら、エンジン」を止めた方が節約になる。特に都市部は停車時間が長いので、効果は大きい」と指摘する。こうした注意点を気を付けながら、同じコースを再び走った。燃費は1リットルあたり11.9キロになり、36%も改善。行程別みると、燃料消費量は発進時に3割弱減り、停止時はアイドリングをやめたことで半分以下になった。仮に年間1万キロを走った場合、ガソリンを305リットル(5万円弱)節約できる計算になる。

指導後の再走行で、燃費が3、4割改善する受講生は珍しくないという。「ちょっとした心掛けでも効果は大きい。ゆっくり走ると、安全運転にもつながる」(山田さん)。エコモ財団認定の講習会は道内の自動車学校15校で実施(同財団ホームページ参照)。中央バス自動車学校のエコドライブ講習会は2、3人での参加を勧めている。その場合、受講料は1人9450円。